

委員会等会議録（調査・研究概要）

平成 31 年 3 月 26 日

箱根町議会議長 様

教育福祉環境常任委員会委員長

箱根町委員会条例第 26 条に規定する会議概要等(会議録)を作成したので報告します。

会議名		教育福祉環境常任委員会
開催日		平成 30 年 8 月 21 日（火）
時間		午後 1 時 26 分～午後 2 時 02 分
開催場所		本庁舎 4 階会議室
出席者	議会	遠藤秀則委員長、村野由紀子副委員長、山田和江委員、勝俣泰彦委員、川口延明委員、石川栄委員、折橋尚道委員
	執行部	環境整備部長、都市整備課長、小田主任主事
	事務局	八木事務局長、高梨書記、鴻田
	傍聴者	公開・非公開の別：公開 傍聴者：なし
議事日程		仙石原交差点周辺まちづくり事業の進捗状況等について
会議概要		<p>冒頭、委員長より、今回のテーマの選定理由について説明を行い、町側からの計画、これまでの経緯について説明を受けた。最後に質疑を行い、閉会となった。</p> <p><テーマ選定理由></p> <p>現在、仙石原交差点においては土日や観光シーズンになると慢性的な渋滞が多くみられるようになっており、また金時林道の工事が進められ、開通した際は今以上の渋滞が予想されることから、町としての取り組みや地域で行った説明会の内容について聞くこととした。</p> <p><町側からの説明（仙石原交差点周辺まちづくり事業の進捗状況）></p> <p>平成 8 年に仙石原交差点における改良計画に係る要望が仙石原地域から出され、平成 13 年、国道 138 号線と県道 75 号線の交差点付近の渋滞解消と歩道整備を目的に整備計画案が作成された。平成 14 年、県が主体となり改良事業を開始したところ、用地買収ができず、長年にわたり改良工事がストップしていたが、平成 27 年、仙石原保育園跡地にバスターミナルの計画について相談があったことから、町としても交差点改良と周辺地域の活性化を目的とした町づくりについて協議を進めてきた。官民連携による町づくりを仙石原から発信していこうということで、行政と民間が話し合う場として仙石原町づくりプラットフォームという組織を立ち上</p>

げた。今後も、仙石原をどのような地域にしていきたいのかという将来像と仙石原周辺町づくり計画や具体的な事業展開を話し合っていく。また、官民連携の事業展開にあたり、国土交通省に対し、官民連携の事業導入について支援を要望したところ採択され、2年程度の支援を受けられることとなった。それぞれの事業の方向性を共有しながら民間の自由な発想やノウハウを活用することで、より効果的なまちづくりに繋げていく。

<質疑>

- 仙石原案内所と営業所もバスターミナルに移動するのか。
→今ある仙石原のバスターミナル、交差点にあるバス停を含め、今回計画しているバスターミナルの敷地の中に収める予定と聞いている。
- 大型バス（12m）が自由に回転できるスペースが確保できるのか。
→詳細は不明だが、中で転回できるような配置にすると聞いている。
- 最大の問題は住民合意だと思うが、再事業化では用地買収に全ての方が応じているのか。
→全てが合意したわけではないが、以前の条件よりは緩和した状態で進めているので、これから詰めていく。
- バスターミナルを予定している旧仙石原保育園跡地は、どのように利活用するのか、売却するのか。
→売却するか賃貸にするかは担当課である財務課と調整をしていく。
- まちづくりの範囲は？
→交差点改良の範囲を重点的に考えているが、プラットフォームの中での意見を参考に、PPP等を活用しながら事業展開していきたい。
- 2年間支援が受けられるということだが、町の財政負担は？
→町が主体というよりも、構成員に町も入って、役割分担の中で進めていきたい。事業的に町の方がいくら投じてという考え方はなく、必要に応じて町の役割として応分の負担をしていく。
- 拡幅箇所は決定しているのか。
→拡幅工事については県が進めており、まだ示されていない。
- 国からの支援はいくら位あるのか。
→国の方の支援が2年間、上限が800万円となっている。
- プラットフォームで決まったことが、仙石原の町づくりの基礎となるのか。
→プラットフォームで決まったことが、厳密にこれをこころましようということじゃなく、町づくりのビジョンを共有しながら、長い年月をかけながら、その時その時で町づくりを展開していけばいいと思っている。
- プラットフォームはどの程度開催を予定しているのか。
→全体会議は2ヶ月に1回程度開催を予定している。個々に協議をする必要がある場合は、必要の都度開催していく。